

審査を終えて

安全教育研究所長 星 忠通

小・中学生の部

昨年（平成三十年）中の交通事故による全死者数は、三千五百三十二人と統計がとり始められた昭和二十三年以降最少を記録した一昨年をさらに下回った。

子ども（十四歳以下）の交通事故をみると、同様に年々減少していることは喜ばしい。

しかし、子どもの死因（死亡率）を年齢層別に見ると、「不慮の事故」が上位に挙がっている（〇歳～四歳三・〇、五歳～九歳一・二、十歳～十四歳〇・九（人口十萬対）（厚生労働省「平成二十九年人口動態統計」より）。

一方、内閣府の「平成三十年版子供・若者白書」の事故・災害データをみると、最近の「不慮の事故」の特徴として、一歳～十四歳では交通事故と溺死が多いことが報告されている。

これらのことから、現代にあつても子どもの命を脅かしているのは「交通事故」といつても決して過言ではない。

このような状況のなか、家庭を中心とした「交通安全ファミリー作文コンクール」の開催は極めて意義深い活動といえる。

【応募数】

平成三十年度交通安全ファミリー作文コンクール、小・中学生の部の応募総数は、一万二千百三十七点（「小学生」二千二百五十二点、「中学生」九千八百八十五点）であった。応募数を昨年度と比較すると、総数で四百四十五点（「小学生」八十一増、「中学生」五百二十六減）と僅かながら減少した。

【審査過程】

1. 予備審査の開催

小・中学生の部に応募した全作品（一万二千百三十七点）は、十二名（教職経験者や編集者など）で構成される予備審査において、小・中学生の学年ごとに上位十名（小学生計六十名、中学生計三十名の合計九十名）を選定し本審査（最終審査会）に送付された。

2. 本審査の開催

最終審査となる本審査会（七名で構成）では、各審査委員は予備審査を通過した全作品（小・中学生計九十名）を事前に評価し、その結果を事務局で「審査評価集計表」としてまとめ本審査会に提出され、これに基づき審査・討議を重ねて各賞を決定した。

3. 選定手順

本審査会においては、小学生の部においては各学年十点の中より「優秀作品」一点以内（計六点以内）、「佳作」三点以内（計十八点以内）を、中学生の部では各学年十点の中から「優秀作品」一点以内（計三点以内）、「佳作」三点以内（計九点以内）をまず選定した。

次いで、各学年で「優秀作品」として選定された作品の中より小学生の部・中学生の部それぞれで、最も優秀と評価された作品を「最優秀作品」（内閣総理大臣賞）として選定した。

なお、「最優秀作品」に選定された学年では、「佳作」の中より最も評価の高い作品を改めて「優秀作品」として再選定した。また、佳作の追加については、更に審査の上で選定を行った。

【選定数】

○最優秀作（内閣総理大臣賞）

小学生全体で一点、中学生全体で一点

○優秀作（国務大臣・国家公安委員会委員長賞）

小学生、中学生とも各学年から一点以内

○優秀作（文部科学大臣賞）

小学生全体で一点以内、中学生全体で一点以内

○佳作（警察庁交通局長賞）

小学生、中学生とも各学年三点以内

【審査結果】

1. 作品に対する審査員からの全体印象・意見

審査を通すなかで、本年度小・中学生作品の全体印象、受賞作印象などについて各審査員から指摘された意見のいくつかを左記に示す。

○小学生は学年が上がるにつれ成長していることが良く分かる。

○学校の指導が行き届いているのか、作文の構成など技巧的に画一な印象を受けた。

○「ファミリー作文」の評価基準として家族など周囲の人々と話し合った様子などがしつかり書かれている作品は、相対的に高い評価を得ている。

○中学生の部では本年度は一年生、二年生の作品には内閣総理大臣賞のレベルに達しているものがないことが残念である。

○これからも高齢者の安全に対する作品（免許返納など）が多くなる傾向が感じられる。
などの発言があった。

2. 最優秀作品と優秀作

ここでは、内閣総理大臣賞と文部科学大臣賞のみの選定結果を示す。

(1) 小学生の部

最優秀作品（内閣総理大臣賞）は、五年生の龍道彩音さんの「お互いに守ろう交通安全」が選定された。本作品は審査員全員が高い評価を与え、小学生作品の中でも群を抜いた作品であった。作品は、登校時の通学班での危険な体験を通して歩行者だけでなく、道路参加者全員の「気配り」や「目配り」の大切さを訴えている点が高く評価された。

この龍道さんの作品の背景には、母親の交通安全に対するとらえ方、すなわち「楽観的安全意識」（だろろう運転）と危険の発生をあらかじめ予想した「攻めの安全意識」（かもしれない運転）の理解の違いが強く影響を及ぼしていると推察できる。

また、文部科学大臣賞には二年生の渡部俊輝さんの「ぼくがまもっているこうつうルール」が選定された。本作

品は自分の身長に関心をもち、その高さが運転席からどのように見えるかを家族（母親）とともに実験しその実態を己のものとした点が評価された。

ここには、交通安全を自分なりに少しでも「科学的」にとらえようとする交通安全の「参加」への姿勢と共に、文部科学省が定める学習指導要領に沿った内容（調べた結果を自分なりに考察する）であることが受賞理由となった。

(2) 中学生の部

中学生の部での内閣総理大臣賞は、中学三年生の鈴木舜さんの「孤立をなくす取り組みを」が選定された。

本作品は今日の運転免許を持つ高齢者の「返納」だけでなく、免許を持たなくなった高齢者のその後までを考えた深い作品であることが評価された。

また、文部科学大臣賞には、三年生の片山怜さんの「反射材の大切さ」が選定された。

本作品は、夜間の反射材の効果を自分なりにデータを調べ、服装の色や速度・距離の違いを理解し、これまでいかに交通安全に無関心であったか深い反省と共に、今後は積極的に取り組もうとする姿が評価された作品である。

最後に、小・中学生の部の予備審査での読み込みと絞込みに尽力を頂いた事務局、並びに本審査会において終始真剣かつ厳正な審査に当たられた審査員の方々に末筆ながら厚くお礼申し上げます、小・中学生の部最終審査の結果報告とする。